

これからの残留農薬分析について

チューケン生活環境研究所

これまで当試験室では、野菜・果実等の残留農薬調査はGC/MSによる一斉分析で対応してきました。LC/MSを含む一斉分析も提案していましたが、高額な分析費用から困難だと考えてきました。しかし、GC/MSによる一斉分析のみでは農薬の残留状況を把握することが困難であることが分かってきました。

残留農薬調査には、GC/MSとLC/MSの両方が必要ですが、使用されている600種類以上の農薬を調査するには莫大な分析時間と費用がかかります。

しかし、各地の特産品である個々の果樹や野菜を対照にした残留農薬調査は可能だと思います。それぞれの産地で使用されている農薬の種類は異なると思いますが、それぞれの産地で使用されている農薬は70種類程度でしょうから、使用されている農薬をリストアップしていただければ当試験室でGC/MSとLC/MSによる一斉分析システムを作成したいと思います。

また、一斉分析では対応できない農薬もありますが、それらについては個別分析となります。分析費用は以下のとおりです。

(1) GC/MSとLC/MSによる一斉分析(70農薬程度) : 35,000円/検体-----5検体以上集めて下さい。

農薬の回収率を求めながら定量しますので5検体以下の場合、50,000円/検体となります。

(2) 個別分析については農薬ごとに分析の難易度が異なりますから、分析費用は、2,5000~50,000円/検体となります。